

## 「変化を大切に」

校長 安藤 徹



12月に入りました。2学期も大詰めとなり、校長室の令和4年のカレンダーも最後の1枚となりました。

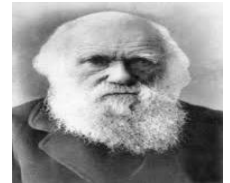


しかし、岩戸養護学校では今月1日には早くも来年度の入学者選抜（入学者検査）があり、そして15日からは1泊で山梨県方面にB部門3年生の修学旅行も計画されており、生徒も教職員も年末という気分になれるのはもう少し先のことになりそうです。

さて今年1年を振り返り、みなさんにとってどんな1年だったでしょうか？

岩戸養護学校にとっては、4月からあらたに自校調理による給食が始まり、日課表等も一部変更するなど、大きな「変化」の1年となりました。そして、コロナ禍はいまだに続いている状況ではありますが、今年は特に全生徒・教職員で「できることを、できる範囲内で、できる形で」という気持ちを強く持ち、できないことをただ嘆くのではなく、どうしたらできるのかという視点をもって様々な工夫や努力を重ねながら教育活動に前向きに取り組んできました。

そして、今までの約3年間にもわたるコロナ禍で、それまで当たり前できていたことができなくなってしまった「変化」、そしてできないと思っていたことが実はちょっとした工夫や他の新しい方法や代用品を使えばできるということが分かったという「変化」・・・この二つの大きな「変化」を私たちはこの3年余りの間で経験してきたわけですが、来年以降これまでの経験を生かしていくためにもこの「変化」による新しい気づきや発見をいつまでも忘れずに大切にしていけることが必要ではないかと考えています。



「強い者、かっこいい者が生き残るのではない。

変化できる者が生き残るのだ。」

チャールズ・ロバート・ダーウィン (Charles Robert Darwin, 1809年2月12日 - 1882年4月19日)

これは進化論で有名なダーウィンというイギリスの科学者の名言です。この言葉は今からもう200年近くも昔の科学者の言葉ではありますが、まさしく現代そしてこれからの時代にも必要な生き方や考え方を示唆してくれているかのような言葉です。

なぜなら、今までのコロナ禍での変化はもちろんのこと、これから先今まで以上のスピードで生活スタイルや働き方などについて「変化の時代」そして「多様性の時代」がやってくるといわれているからです。

岩戸養護学校では4月号でもお伝えした通り、今年度の学校の重点目標として『「自律した」生徒・教職員・学校をめざす』ということ掲げています。「自律していく」ためには「自分で考え、行動する」ことが大変重要になってきます。まさしくこれからの時代の様々な「変化」や多様性にどう柔軟に対応していけるかということが成長のカギになるのではないかと考えています。



来年がどんな年になるか、正確な見通しを持つことは難しいところですが、今年と同じ1年にはきっとならないはずですが、どうぞよいお年をお迎えください。

令和4年12月1日